

令和7年度 第1回東広島市地域公共交通会議 議事録

会議内での発言については、逐語録ではなく要約しております。

1 日時

令和7年6月25日（月）15：00～

2 場所

東広島市役所 本館3階 会議室303

3 出席者

塚井会長、山口委員、見崎委員、渡瀬委員、山根委員（代理：鴨下営業部長）、山田委員（代理：山田事務局長）、本藤委員、吉田委員（オンライン）、佐久間委員、片山委員、染川委員、宮田委員（オンライン）、蔦委員、西川委員（代理：小林参事）、水本委員（代理：中和主任）、大月委員、台信委員、中村委員、藤原委員

4 議事次第

1 開 会

2 審議事項

- （1）令和6年度東広島市地域公共交通会議決算（案）について
- （2）地域公共交通計画（東広島市都市交通計画）における令和8年事業年度地域公共交通確保維持事業に係る計画の策定について

3 報告事項

- （1）小谷地域公共交通（おまるめ山バス）のダイヤ改正等の見直し検討について
- （2）市民参加型プラットフォーム（SNS）について

4 その他

芸陽バスまつりの開催報告について（2025.5.24 開催）

5 閉会

審議事項（1）令和6年度東広島市地域公共交通会議決算（案）について

○事務局： <資料説明>

○塚井会長： ご意見、質問などはあるか。

○全員 <なし>

○塚井会長： 歳出の補助金の予算額が約3,200万円に対して決算額が約2,000万円になっているが、その食い違いがどうして生じたのか補足していただきたい。

○事務局： 地域公共交通の補助金にはいくつかの要件があり、例えば定時定路線では1回の運行につき2人以上の乗車が必要であり、デマンド型では実際の運行便数が計画運行便数の30%以上であることなどが定められている。今回はこうした要件を満たさない路線があったことが、補助金の執行額が予算額を下回った、主な要因である。

○塚井会長： 補助要件に完全には適合しておらず、補助金の見込みと実際に差異が生じた件については、今後個別の案件で出てくると思うので、現時点では、全体の金額を確認いただくようお願いしたい。基本的に、公共交通に関わる各種事業や補助案件については、会議体で一旦補助金を受け、その後、それぞれの事業に対して支出していく仕組みとなっており、適切に処理されている。

○塚井会長： その他ご意見、質問などはあるか。

○全員 <なし>

○塚井会長： それでは、本審議事項について本会議にて合意したものとみなしてよろしいか。

○全員 <意義なし>

○塚井会長： 本審議事項については、合意したものとする。字句等の修正については、会長に一任いただきたい。

審議事項（2）地域公共交通計画（東広島市都市交通計画）における令和8年事業年度地域公共交通確保維持事業に係る計画の策定について

○事務局： <資料説明>

○塚井会長： ご意見、質問などはあるか。

○蔦委員： 4ページ以降に、目標値を定めていただいているが、昨年度ものから見え方が変わっている。西条地域は事業者別、系統別に目標値を設定されていたが、今回から系統でまとめられている。志和地域については、3つの地域ごとに目標値を設定されていたが、今回から3つの地域を1つにまとめられていると思われるが、なぜ変更されたのか皆様に説明をお願いしたい。

○事務局： 西条地域では、2つの事業者が同じ目標値だったため、1つにまとめて系統ごとに掲載した。志和地域（6ページ）は、志和町全体を対象としてフィーダー補助を受けている。そのため地区ごとではなく地域全体で目標値を設定した。

○蔦委員： 先ほどのご説明を踏まえると、目標値をまとめて設定することに合理性があるため問題ない。

○塚井会長： その他ご意見、質問などはあるか。

○全員 <なし>

○塚井会長： 先ほどの決算書にある補助という項目と今回の内容は関係しているのか、ま

た予算とのつながりについても補足して説明していただきたい。

- 事務局： この計画は補助と連動しているものである。あくまで系統ごとの計画を申請するものであり、実際の補助額は運行実績に基づいて算出されるため、予算と決算に差が出ることもある。
- 塚井会長： その他ご意見、質問などはあるか。
- 全員 <なし>
- 塚井会長： 目標の立て方以外に、路線を追加したなどの、大きな変更点はないと認識してよいか。
- 事務局： 今回はない。
- 塚井会長： それでは、本審議事項について本会議にて合意したものとみなしてよろしいか。
- 全員 <意義なし>
- 塚井会長： 本審議事項については、合意したものとする。

報告事項（１）小谷地域公共交通（おまるめ山バス）のダイヤ改正等の見直し検討について

- 事務局： <資料説明>
- 塚井会長： ご意見、質問などはあるか。
- 山口委員： 前回のご紹介時には、地域イベントでの乗り方教室やクッキー作りなど、地域密着型の面白い取り組みが行われ、当時は利用も多かったと報告されていた。その後の利用状況について確認したい。
- 事務局： 最初の１年の実証運行中では１便あたりの平均利用者数が０.975人であったが、現在は１.1人に微増している。地域の方々が努力を続けているものの、８系統のうち４系統は目標値に達していない。全体では目標を超えているが、系統別では達成していない箇所もあるため、引き続き地域の方々が利用率向上に取り組んでいる。
- 塚井会長： 地元の方が頑張っているとのことだが、連携しているのは自治会の方なのか。また、運営協議会や現場で市役所職員以外に活動している方はいるのか確認したい。
- 事務局： おまるめ山バスの運営協議会は、住民自治協議会（以下「自治協」）の組織を基に構成されており、地元の自治協の方々が運営を担当している。
- 塚井会長： 地元の方と事業を進めることは非常に意義があり、現場からの提案もありがたい。ただし、負担が一部の方に偏っている可能性があり、懸念される。似た組織で運営することで全体を把握しやすいメリットはあるが、地域によって支援の行き届き具合に差があるため、社協や民生委員などとも連携が必要である。
- そのため、地元の方の負担を軽減するためのしっかりとしたサポートと、情

報に抜けがないように関係者との連携を重視すべきである。

市役所のリソースには限りがあるが、支援の範囲を明確にし、内部だけで完結せず広い視点で対応することが求められる。

○事務局： 今後も市として継続して支援・協力していく考えである。

○塚井会長： その他ご意見、質問などはあるか。

○中和代理： 県においても現在、福富町で同様の実証運行に向けて、地域住民や東広島市と連携しながら取り組みを進めているところである。小谷地域(人口約3,800人)において、おまるめ山バスの利用はどのようなターゲット層を想定しているのかを伺いたい。また、そのターゲット層に対して計画どおりの利用が実現できているのか、それとも利用が進んでいないところがあるのか、この2点についてお聞きしたい。

○事務局： 主なターゲット層は、免許を返納した高齢者(主に60代～80代)で、体がまだ動くため買い物や通院を自分でしたい方々を対象にしている。小谷地域センターではポスター掲示やおまるめ山バスだよりの定期発行(2ヶ月に1回、増刊号は年2回)で周知を図っているが、利用率が伸び悩んでいる。そこで今回、協議会の会長を中心に、原因分析とルート延伸・ダイヤ改正に取り組んでいる。

小谷地域は人口約3,800人のうち、65歳以上が1,000人以上を占め、高齢化が進んでいる。もともと高齢者の移動支援を主な目的として運行を始めたが、現在は利用者数が伸び悩んでいる。そこで、自治協として企画を通じて、行動変容を促すことに着眼し、新たな取り組みを模索している。

具体的には、社協や通いの場に関わりながら高齢者に情報提供を行い、行事の際にはバスで来てみないかと提案し、実際に乗ってもらうことを目指している。試乗を通じてバス利用のハードルを下げ、移動手段としての定着を図る考えである。今後も効果的な取り組みがあれば随時報告したい。

○塚井会長： その他ご意見、質問などはあるか。

○蔦委員： 現在、地域の方と調整をされているということだが、いつ頃改定を予定しているのか。

○事務局： 現在、課題を抽出しており、見直し時期は最速で来年の年明け頃を地域として想定している。

○塚井会長： 全系統が白市駅を発着・経由しているが、JRとの乗り継ぎ時間はどのようになっているのか。

○事務局： 乗り継ぎ時間は考慮しているが、現在は少し長い箇所もあるため、市から程よい乗り継ぎができるよう提言している。

○塚井会長： JRの乗り継ぎ時間を重視してダイヤを組むと、現利用者を取りこぼす可能性があると考えられる。乗り換え案内や検索アプリは存在するが、バス路線を十分に網羅していないため高齢者が利用するのは難しい。

そこで、可能な範囲で乗り継ぎができるかどうかをパンフレット等に明記することを提案する。JR とおまるめ山バスの時刻表を両方見ること確認はできるが、情報を分かりやすく示すことが重要である。

接続できている便については案内しておけば、片道利用でも効果があると思う。

○事務局： 乗り継ぎ時間については運営協議会でも話し合われている。白市駅から西条方面へ行く際に跨線橋を渡る必要があり、主なターゲットである高齢者にとって 5 分での移動は難しく、15 分前後の乗り継ぎ時間が望ましい等の協議が行われている。可能な範囲で調整を進め、引き続きチラシやパンフレットに乗り継ぎ情報を掲載していく予定である。

○塚井会長： 現在、白市駅にはエレベーターが設置されている。高齢者の中には階段のイメージを持っており、それを知らない可能性がある。パンフレットにエレベーターを設置してあることを記載することで、利用のハードルが下がる可能性がある。

丁寧な対応をいただいているが、利用が伸び悩んでいる状況であり、引き続き試行錯誤を重ねながら取り組んでいただきたい。

○塚井会長： その他ご意見、質問などはあるか。

○全員 <なし>

○塚井会長： 「小谷地域公共交通（おまるめ山バス）のダイヤ改正等の見直し検討について」の報告を以上としたい。

報告事項（２）市民参加型プラットフォーム（SNS）について

○事務局： <資料説明>

○塚井会長： ご意見、質問などはあるか。

○全員 <なし>

○塚井会長： この資料 1 ページに記載されている 2025 年 5 月～3,200 回という数値は、5 月から本日までのおよそ 2 か月間の実績を示しているものか確認したい。

○事務局： 5 月から 6 月 18 日までの実績である。

○塚井会長： この減少については、ロボットが一時的にアクセスして存在を確認しに来ていたものが落ち着いてきた印象であり、人間が閲覧しているものではないと考えられる。

○事務局： 投稿数自体の減少が、全体的な閲覧数の大幅な減少の一因であると考えられる。ネタが不足しているため、良いアイデアや投稿したい内容があれば、事務局への情報提供をお願いしたい。交通会議の委員の方で SNS を利用している方には、ぜひフォロワーとしてもご協力いただきたい。

○塚井会長： 利用促進の観点から、バス停周辺に何があるのかが利用者にとって重要であ

る。個人的には、お饅頭を売っている店があるかどうかなど、100～200m 圏内の情報を知りたいと感じている。

バスに乗ることが目的の方以外は、降車後に目的地があるため、バスの使い方を考える上で、周辺施設や店舗の情報は基本的な要素である。誰がその情報を発信するかが課題ではあるが、小規模な店舗にとっては、無料で広告できる手段にもなり得るため、可能性はあると考えられる。

○事務局： 交通はあくまで目的を達成するための手段であり、移動の目的側からアプローチするという考え方は非常に重要である。会長のイメージされているような隠れた名店のような情報については、地域の方々が詳しいと考えられるため、そうした地域の情報と連携しながら検討を進める方法も有効であると考ええる。

○山口委員： 事例として、芸備線対策協議会があり、沿線自治体である広島市・安芸高田市・三次市・庄原市によって構成されており、ローカル線攻略ガイドを作成している。各駅周辺のお店情報は、市役所の職員が一軒ずつ訪問して写真を撮り、掲載の許可を得て手間暇かけて作成している。取材などの方法も一つの手段として考えられる。

○塚井会長： 思いつくこととしては、季節の花など自然の魅力を活かしてはどうか。自然を見る目的でバスに乗ったり、気軽に散歩したりする人が増えればよい。基本的には、バスは生活の利便のためだが、誰でも利用できる公共交通なので、気軽にふらっと立ち寄る人が増えれば、利用者数の増加につながる。運営側も情報発信を楽しめるようになると、さらに良い効果が期待できる。観光客が多く使うイメージは少ないが、平日に積極的に動く人もいるため、こうした取り組みは試す価値がある。お店が難しければ自然の魅力でもよく、写真だけでも需要喚起になる。固く考えすぎず、地域の面白い情報を発信するとよい。

○事務局： 地域の方々は地域の財産をよく知っていると思うため、連携しながら、地域のコミュニティバスや一般路線バスでしか行けない場所などについて、交通事業者の意見も聞きながら模索していく。

○塚井会長： バス利用者に対してわずかでもサービスを提供することが望ましい。駐車場での混雑を避けるために、たまにはバスで買い物に来ませんかという程度のもので十分であり、ポイント付与などがあればさらに効果的である。

○見崎委員： のんバスの協力店舗が多く存在するため、それらを紹介して利用を促進すれば、店舗の売上向上と利用者増加につながり、さらに SNS でのアクセスも向上すると考えられる。

○塚井会長： その他ご意見、質問などはあるか。

○全員 <なし>

○塚井会長： 「報告事項（２）市民参加型プラットフォーム（SNS）について」の報告を

以上としたい。

最後にその他として、意見交換の時間を設けさせていただく。

【芸陽バスまつりの開催報告について】

○見崎委員： <資料説明>

○塚井会長： 賑わっていたことは非常に良いことである。来場者数が 400 名というのは、予定していた人数とほぼ同じであったのか。

○見崎委員： 想定の倍の人数であった。小規模で実施するつもりであったため、驚いた。雨で近隣の小学校の運動会が中止になったので、逆にその人達がイベントに来られて、来場者が多くなった要因の一つになったのかもしれない。

○塚井会長： 運動会の中止は来場者数に大きく影響したと思われる。もし晴れていれば、むしろ来場者は少なかった可能性もある。来年以降も同程度の来場者が期待できるかは不明だが、社会的な関心は高いと考えられる。バスの広報活動の一環としては費用や手間がかかるものの、開催すると好反応が多い。今後もこうした活動を続けることで利用者増加につながると信じており、個人的にはぜひ推進していただきたいと考えている。

○塚井会長： その他ご意見、質問などはあるか。

○全員 <なし>

○塚井会長： それでは、これをもちまして、本日予定されていた議事等は、全て終了した。委員の皆様には、会議の円滑な進行に御協力いただきまして、ありがとうございました。以上で令和 7 年度第 1 回東広島市地域公共交通会議を終了する。

以上